

文化

両横綱への視線に温度差

モンゴル 変化する時代の中で

国立民族学博物館教授(モンゴル学)

小長谷有紀



展しているように見える。ただし、この経済成長は金や石炭などの鉱物資源の輸出に大きく依存しており、その恩恵が広く国民に行き渡っているとは言いがたい。06年の自殺率(10万人あたりの自殺者数)は44人で世界第2位を記録し、深刻な経済格差が広がっていることをうかがわせる。そんな中で、ごく普通の庶民も採用しうる方策、それが海外移民である。

8日から大相撲名古屋場所が始まる。朝青龍に続いて白鵬が横綱となり、東西両横綱をいずれもモンゴル出身の2人が担う、初めての場所となる。相撲ファンなら、驚いさえにまします熱くなるに違いない。一方、モンゴルでは、実際のところ今夏は干ばつ気味で猛暑が予想されているもの

の、相撲人気のほちは冷えて込んでいる、という。なぜだろうか。

モンゴルでは、1989

年の民主化以降、社会主義下の計画経済から市場経済へと急激に移行した。多くの人が職を失い、自ら「担ぎ屋」となって小規模な流通業を担い、かろうじて糊口をしのいだ。現在では国内総生産(GDP)の成長率は10%を超え、順調に発

展しているように見える。ただし、この経済成長は金や石炭などの鉱物資源の輸出に大きく依存しており、その恩恵が広く国民に行き渡っているとは言いがたい。06年の自殺率(10万人あたりの自殺者数)は44人で世界第2位を記録し、深刻な経済格差が広がっていることをうかがわせる。そんな中で、ごく普通の庶民も採用しうる方策、それが海外移民である。

韓国への出稼ぎは2万7千人とする統計があり、また世界中に約8万人が流出していると推計されている

る。人口わずか250万人の国でこの数字は小さくはない。こうした移民の実態に関する詳細な検討は、モンゴルの未来を考える上で、今後の重要な課題となっている。とりあえず今言えることは、相撲もまた個人の能力次第で可能な、出稼ぎの一つであるということだ。しかし、02年より外国出身力士の人数制限が始まると、直ちにモンゴル人にとってもはや魅力的な出稼ぎ先ではなくなった。次



朝青龍(左)と白鵬 5月、国技館で

なるスポーツとして柔道が注目されている。そして何よりも、身体的な能力よりもむしろ、エレガントな外国語やタフな交渉といった知的な能力を発揮できる出稼ぎが、モンゴル人にとってモデルとして魅力的に実在するようになってきたのである。

モンゴルで相撲人気は冷える原因として、そうした時代の変化が背後にあると同時に、実は白鵬の行動自身の原因となっているようにも思われる。モンゴル人たちの多くは相撲のテレビ中継をよく見ており、取組だけでなく、白鵬が横綱となる前に日本人の女性と結婚し、子どもも生まれたという報道も映像で見たらしい。モンゴルの若者たちに聞いてみると「本当にうれしそうだった。本当にうれしそうだろう。そんなにうれしいのならもう仕方ない」と言う。彼の幸せを祈りつつも、もはや彼はモンゴル人ではないとも言わんばかりに。さらに「横綱になつてから日本人と結婚すべきだった」と言う人もいる。そうしていればモンゴル人が彼を称賛し続けたであろうと言うわけである。

わたしは日本人が何げなく、白鵬が日本人になることを期待したり、彼の子どもが日本人となることで

安堵したりするのと似て、しかしもっと意識的に、モンゴル人は白鵬がモンゴル人であることをもはや捨けたと感じているようである。朝青龍があくまでもモンゴル人として出稼ぎをしているのに対して、白鵬は国籍のいかんにかかわらず、移住して日本人らしくなる、そんな新しい時代の到来として、モンゴル人びとは受け止めているのである。

相撲は日本の国技だとわたくしたちが主張するのならば、そもそも古来、各地からの勇者を丸腰で戦わせることよって平和を象徴する舞台として演出されてきた、という伝統ののっぴり、外国人のままで世界中から参加してもらえらることを大いに愛でるべきではなかったか。